

# 地域の特性を生かした道路整備

太田大三  
盛岡市長

223

Road Improvement and Reconstruction founded  
on the Regional Characteristic

Daizo OHTA

Mayor, Morioka City

東北縦貫自動車道の開通、さらに東北新幹線の開業といった本格的な高速交通時代を迎えて、北東北の中核都市としての当盛岡市の役割が重要になって参りました。地名の盛岡は「さかる岡」の意味で名付けられ、1597年（慶長2年）南部信直公がこの地に盛岡城を築城してから386年の歴史をもつ城下町であります。以来、岩手県の県都として、行政、経済、教育文化等の中枢機能を持つ人口23万人の都市として発展を続けております。

盛岡のまちは、市内の中心部を貫流する北上川、雫石川、中津川の3本の清らかな流れと、市街地を取りまく周囲の山並みの緑とが調和して、美しい自然景観を構成し、「水と杜の都」とも呼ばれ、市民が誇りとしております。かえりみますと、当市はこの20年間、県および周辺町村の人口の減少にもかかわらず、かつて経験したことのない急激な市街地の変容をとげて参りました。人口の増加に伴う市街地の外延化、都心部でのホテル、マンション、業務ビルなどの建築の増加、高層化などあります。また、戦災や天災等による道路整備の機会がなかったため、城下町時代の道路形態を色濃く残している市街地では、モータリゼーションの進展により、放射道路のラッシュ時の交通渋滞、交通緩和策としての一方交通規制などの交通問題が生じました。盛岡の交通の特性は、競合する都市が近くにないことから、中心性が極めて強く、そのため通過する交通が少なく、都心部の道路は終日、混雑の状況にあります。交通問題の解決は、当市の都市機能を左右する問題でもあり、今後の大きな課題であると考えております。

当面する交通問題の解決策は種々考えられますが、速効的に対応するためには、当市の都市規模から見てバス利用の促進を図ること以外にないと考えております。とはいっても、バス利用者が年々減少している現状に鑑み、この原因となっている円滑な運行、走行速度の向上などにより、定時性の確保を図ることが重要であります。このため道路整備、交差点改良、バス専用レーンの導入など総合的、重点的な整備が必要であるとの考えのもとに、昭和58年度からバス路線総合整備モデル事業に取り組んでおります。

また、長期的視点にたつて都市の骨格を形成する都市計画道路については、既決定の内容では現在の交通事情には対応できなくなったこと、さらに建築物の堅牢化、高層化に備えて根本的に都市計画道路の見直しを進めております。見直しにあたっては、古き良き街並みの保存と都市機能を確保する必要性との調和の難しさがありますが、公共交通機関としてのバス路線網の確保や、自動車、自転車などそれぞれの交通手段の適正な役割を考えて進めております。さらに、21世紀に備えて現市街地の地形特性である東部の山並みを保全し、歴史と伝統にはぐくまれた旧市街地を保存しながら、一点集中的な都市構造を改善するため、盛岡の発展のエネルギーを計画的に現市街地の南部に誘導し、新しい業務地を含む新市街地を開発する盛岡南地区開発プロジェクトに取り組んでいるところであります。

いずれにしても新幹線時代の到来により、急速な変化をとげつつある中において、都市の根幹となる道路の整備と併せ、盛岡の特長である「水と緑にあふれ、歴史の息づく街」の良さを失わないようにするため、地区計画制度、都市景観形成モデル事業などの導入を図りながら、活力とuringおいのある北東北の中核部を建設すべく努めているところであります。

原稿受理 昭和58年7月4日